

# 教育現場を活用してスポーツ離れを解決する

2年1組 赤松 遼音    2年1組 板尾 拳太  
2年1組 平田 桜子    2年1組 劉 茉柔  
2年2組 伊藤 妃花    2年2組 金澤 勇仁  
2年2組 兵頭 二稀    指導者 堀内 秀嗣

## 1 課題設定の理由

「県民のスポーツに関する意識調査（愛媛県）」の「運動・スポーツの好き嫌いについて」の結果を前回（H29）と今回（R4）で比較すると、運動を「するのも見るのも好き」と答えた児童・生徒は3.9%減少し、「するのも見るのも嫌い」と答えた割合は3.4%増加した。（図1）また、文部科学省によると、子どもの体力の低下の原因としてスポーツや外遊びに不可欠な要素である3つの間（時間、空間、仲間）の減少が考えられる。子どもの体力の低下は、将来的に国民全体の体力低下につながり、生活習慣病の増加やストレスに対する抵抗力の低下など、心身の健康に不安を抱える人々が増え、社会全体の活力が失われる事態が危惧される。我々は、この3つの間を教育現場を活用して改善することで、スポーツに関心を持つ子どもが増え、運動不足を解消することが可能になるのではないかと考え、本研究を行った。

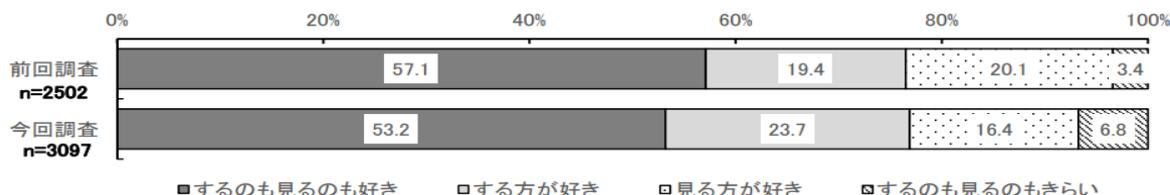


図1 運動・スポーツの好き嫌いについて

## 2 仮説

- (1) スポーツを苦手だと感じるため嫌いになり、スポーツと関わらなくなるのではないかと。
- (2) 3つの間（仲間・時間・空間）の減少によってスポーツに関わる機会が減り、運動不足を引き起こしているのではないかと。

## 3 研究の方法

- (1) 校内の生徒100人に対して、スポーツの好き・嫌い、得意・苦手についてのアンケートを行った。
- (2) 班員の出身小学校の児童に対して、3つの間（仲間・時間・空間）についてのアンケートを行った。（全7校 回答数1075名）アンケートの設問は以下の通りである。  
本論文では、特に以下の設問に焦点を当てて分析を行った。

1. 普段遊ぶときの人数に○をつけてください。  
（選択肢：1人/2～3人/4～5人/6人以上）
2. 学校が終わってから遊ぶ時間がありますか。  
（選択肢：ある/ない）
3. もっと遊ぶ場所が欲しいと思いますか。  
（選択肢：思う/思わない）

## 4 結果と考察

- (1) 図2に校内の生徒に対するアンケートの結果を示した。
- (2) 図3・図4・図5に小学校の児童に対するアンケートの結果を示した。

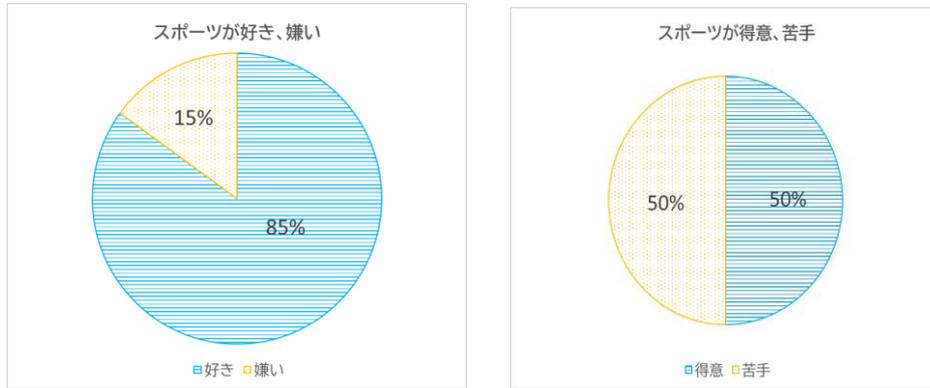


図2 校内の生徒に対するアンケートの結果

図2では、「好き」と答える生徒が85%、「嫌い」と答える生徒が15%となった。しかし、得意・苦手については50%ずつとなった。このアンケート結果により、スポーツの好き・嫌い、得意・苦手は異なることが分かる。

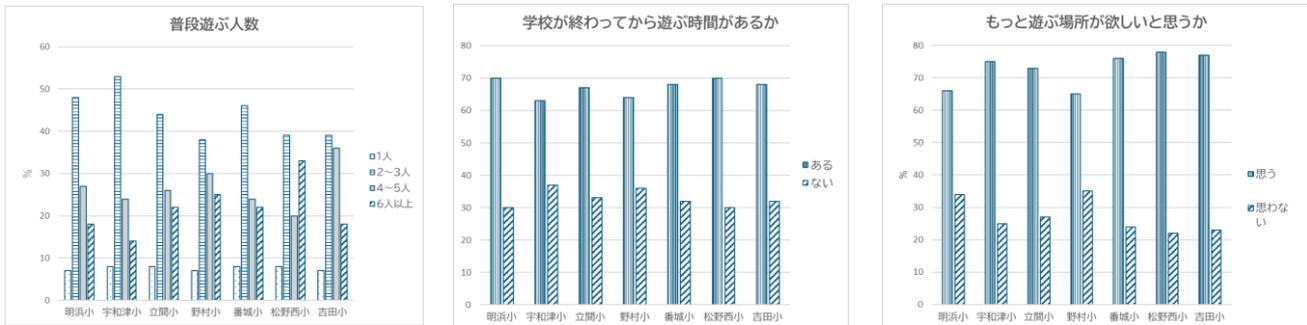


図3 普段遊ぶ人数の回答 図4 遊ぶ時間についての回答 図5 遊ぶ場所についての回答

図3では、「1人」と答える児童はいるが、割合は小さい。図4では、「ない」の割合が学校によって異なる。図5では、全部の学校で「思う」の割合が半数以上を占めている。これらのことより、3つの間の中でも「空間」の減少が多く地域の共通する運動不足の原因ではないかと考えられる。

## 5 まとめと今後の課題

アンケート結果より、スポーツが苦手だからと言って、必ずしもスポーツを嫌いになるわけではなく、関わりを完全に断つわけでもないということが分かった。また、「空間」の減少が多く地域の共通する問題となっていることが分かった。教育現場を活用してより多くの児童・生徒の現状や意見を調査し、公園など具体的な遊ぶための「空間」だけでなく、周りの環境も含めた「空間」の改善の仕方や、運動不足が増えている他の原因も詳しく調べたい。

## 6 謝辞

本研究を進めるにあたりアンケート調査へ協力していただいた本校の生徒、小学校の児童や教職員の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

## 7 参考文献

- ・ 県民のスポーツに関する意識調査 アンケート調査報告書
- ・ 文部科学省子どもの体力向上のための総合的な方策について（答申）